

# 基礎研究を支える 企業との連携

教育研究の充実や、公共性の高い課題解決のため、東京大学内には企業らによる支援の下で、寄付講座や社会連携講座が設置されてきた。これらの講座が果たす役割とは。都市環境工学分野に設置されてきた講座を紹介する。

## 寄付講座 下水道システムイノベーション

### 異分野と下水道の連携拠点

「連携」の拠点到  
下水道システムイノベーション  
研究室は、令和2年度に東京都下水道サービスの創立35周年記念事業として、未来を担う下水道人材の育成や下水道の発展への貢献を目的に設立されました。メンバー

は滝沢智教授を筆頭に、加藤特任准教授と野村特任助教です。  
下水道は転換点にあると思っ  
ています。これまでひたすらに下水道普及率の向上を追いかけてい  
ましたが、今は、建設から管理・マ  
ネジメントの時代とも言われてい  
ますし、ゲリラ豪雨や資源利用、

地域の資源を循環  
研究室の冠にしている「イノベ  
ーション」はそもそも、異分野や  
違う資質・知識を持つ人との融合  
でしか生まれません。人と人をつ  
ないでいくことでイノベーション  
を起こし、付加価値を生み出して  
いくことがミッションです。研究

人のマネジメント  
「グローバルとローカル」の視  
点を有する人材として、学生、そ  
して民間企業や自治体の若手もこ  
の研究室でサポートします。1年  
近く学生と接してみて、思ってい  
た以上に下水道への興味が低いと

【野村洋平氏】平成30年愛媛大  
学大学院連合農学研究科生物環境  
保全学専攻博士後期課程修了。以  
後、高知大学や愛媛大学での勤務  
を経て、令和2年より現職。



東京大学大学院工学系研究科  
都市工学専攻下水道システムイノベーション  
研究室特任助教

野村 洋平氏



東京大学大学院工学系研究科  
都市工学専攻下水道システムイノベーション  
研究室特任准教授

加藤 裕之氏

融合が求められる時代だからこ  
そ、産官学と市民を含めた主体の  
融合、異分野との融合、地理的・  
空間的な融合——それぞれの連  
携拠点にしたいと思っています。  
ただ、研究室自体は単なる箱でし  
かありません。「ここに人  
間」が架け橋となり、  
きっかけを築いていきます。

【加藤裕之氏】昭和61年早稲田  
大学大学院理工学研究科修了、同  
年建設省入省。以後、国土交通省  
下水道部下水道事業調整官、同流  
域管理官、同下水道事業課長など  
を歴任。その後は日水コンなどで  
の勤務を経て、令和2年より現職。

地球温暖化、老朽化、持続的経営、  
PPPなど、下水道事業の目的や  
役割、政策が多様化しています。  
本講座では、さまざまな分野との  
融合も図りつつ、新たな時代に対  
応できる人材育成と下水道システ  
ムの研究、社会への発信を行うこ  
とを目的としています。

融合が求められる時代だからこ  
そ、産官学と市民を含めた主体の  
融合、異分野との融合、地理的・  
空間的な融合——それぞれの連  
携拠点にしたいと思っています。  
ただ、研究室自体は単なる箱でし  
かありません。「ここに人  
間」が架け橋となり、  
きっかけを築いていきます。

地域資源循環は大都市にも地方  
都市にとっても重要な問題で、「循  
環」は研究室が取り組む最も重要  
なキーワードと考えています。資  
源とお金を地域の中で回すシステ  
ムを構築し、都市経営の効率性と  
付加価値を高めていくような活動  
をします。農・水産業、エネルギー  
などの多様な分野との融合を強  
め、地域の市民、民間企業と協力  
しながら地域資源循環システムを  
構築・普及させるための理論と必  
要となるテクノロジーの両方を大  
きな研究テーマとしていきます。

いう厳しい現実がわかりました。  
下水道事業では人・モノ・カネのマ  
ネジメントを推進していますが、  
今いる人のマネジメントでなく、  
裾野と入口を広げていくことが重  
要です。下水道の魅力や楽しさを  
少しでも多くの学生に伝えたいと  
考えています。そして、異分野の  
リーダーとして活躍する学生にま  
で広く伝えることは下水道の価値  
の社会への浸透、そして下水道と  
異分野の融合によるイノベーション  
に必ずつながるはず。学生  
の頭の片隅に残る刺激的な講義に  
なるようにさまざまな工夫を続け  
ていきますので、関係者の皆さま  
のご協力をお願いします。

室のスタートとなった令和2年度  
は、TGSおよび民間企業との共  
同研究等として省エネ型の高度処  
理システムや都市の水の臭気問  
題、下水道資源の農業利用につい  
ての市民調査等を行いました。今  
後は、地域資源循環等についてさ  
らに分野を広げていきます。